

新年度を迎えるにあたって

現在、GAFAと呼ばれるプラットフォームが我々の生活や企業活動を根底から変えつつあります。小売業では昨年米国のシアーズが倒産し、金融業では先月メガバンクの一角が構造改革のため巨額の損失計上を発表しました。エネルギー業界も例外ではありません。既にグーグルやアマゾン、ブロックチェーンの技術を武器に電力事業に参入しています。これに対抗するため、国内電力会社の中には既にデジタルマーケティングの手法を活用した電力小売りのベンチャー企業を立ち上げる動きも出てきました。現在、進行中の電力・ガスシステム改革すら小さく見えるパラダイムシフトの中で我々はどうしたら生き残れるのでしょうか。

そのためには、我々が変わらなければなりません。しかしながら、脳科学者によると生物は自己保存のため、変わることを拒否する本能を持っているおり、本能を克服する強い意思力がない限り、変わらないそうです。過去の経験も変わることの障害となる事例も多いでしょう。

最近公開された映画「チャーチル」では、ノルマディ上陸作戦を前に時のチャーチル首相が第一次大戦において自ら立案したガリボリの戦いでトルコ軍に惨敗した呪縛に捉われ苦悩・逡巡する姿を克明に描いていました。20世紀を代表する大政治家ですら過去の経験から脱せない姿に改めて変わることの難しさを痛感しました。

我々を取り巻く事業環境、お客さまのニーズ、国の政策等が非連続的に変化している中、「正しく」、「早く」、「大胆に」変化する必要があります。

このような危機意識を踏まえ、今年度の経営方針を策定しました。策定にあたっては、昨年度の活動のレビューを社内ですべてに議論しました。特に昨年度の取り組みが不十分だった項目について、今年度、手法をどう変えれば良いか、我々がどう変わればよいか、という観点から経営方針の実施策にあたるアクションプランに落とし込みました。

変化の時期は、逆に大きなビジネスチャンスが生まれる好機でもあります。経営方針及びアクションプランの完遂を通じて来年の今頃は我々全員がレベルアップし、お客さまに少しでも高く評価して頂ける集団となることを目指しましょう。

代表取締役社長

湊 好男

《2019 年度経営方針 最重点項目》

エネルギー競争時代が本格化する中、
外に向かっては「お客さまに信頼され、
選んで頂けるエネルギー事業者」を目指すと共に、
内に向かっては「より働きやすい職場づくり」に役職員一丸となって取り組む

事業部門別取組方針

ガス供給事業

1. 安定的な供給体制の強化
2. 新規ガス供給先の拡大
3. 進行中の新規ガス供給設備の工期通り・予算内の竣工
4. 人財の育成
5. ガス販売価格の競争力強化
6. ESP 事業強化に向けた施策の検討・実施

可倒式風力関連事業

1. トンガ案件の工期通り・予算内の竣工

2. 既存 7 基の稼働率向上に向けた施策の立案・実施
3. 新規海外案件獲得に向けた検討の実施

分散型電源事業

1. 既存供給先への安定的なサービスの提供、改善策の提案

浄水事業（牧港火力発電所）

1. 牧港火力発電所の将来計画を踏まえた適切な対応

太陽光発電事業（渡嘉敷太陽光）

1. 設備の計画的な点検・修繕による稼働率向上

社員紹介

技術営業部 ガス課 主任（ガス営業）

大瀨 康啓

（おおはま やすひろ）

出身 那覇市

生年月日 1987 年 6 月 2 日

入社日 2015 年 2 月 1 日



子どもと一緒にVサイン

Q1. 担当業務について教えてください。

ホテルや工場、病院などで使われる燃料として、天然ガスの導入をご提案する業務を行っています。

天然ガスの経済性のメリットはもとより、県内における石油系燃料と比較した供給安定性、さらに環境や設備にも優しいクリーンなエネルギーであることをお客さまにご説明して採用につなげています。

実際に導入いただいたお客さまから、「コスト削減になった」や、「機器のメンテナンスが楽になった」等のお褒めの言葉をいただくことが、やりがいにつながっています。

Q2. 仕事をすすめる上で気をつけていることは何ですか？

天然ガスの導入のご提案にあたっては、どのような機器をどのようなシステムでお使いいただくことがベストなのか、お客さまによってそれぞれ違います。お客さまのニーズを的確に把握するとともに、機器の情報も常にブラッシュアップすることを心がけています。

Q3. 今後の抱負について教えてください。

沖縄県での天然ガス利用は拡大しており、業務は忙しいながらも、社員は平均年齢が33才と若く、みんな生き生きと仕事をしており、明るく風通しの良い職場だと思います。当社は沖縄電力グループが進める総合エネルギーサービスの天然ガス供給を担う会社として、エネルギーの安定供給に高い社会的責任が求められます。引き続き自己研鑽に励み、沖縄のエネルギーを支える一員として頑張っていきたいと考えています。

Q4. 趣味は何ですか？

学生時代はずっと野球をやっており、特に高校時代は、当時県内有数の強豪校で甲子園を目指して練習に励みました。高校最後の沖縄県大会は決勝戦で敗れ、甲子園出場とはならず悔しい結果となりましたが、週末の多くは当時のメンバー達と、今でも野球を楽しんでいます。

新入社員紹介



平良 隆一郎

（たいら りゅういちろう）

生年月日 1993 年 1 月 7 日

2015 年 3 月 琉球大学

工学部電気電子工学科 卒業

■主な国家資格

・第二種電気工事士

・第一級陸上無線技術士

・情報セキュリティマネジメント

自己PR

前職の営業の経験を活かし、お客さまのエネルギーに関するニーズに全力で応えられるよう頑張ります。

今後の抱負

日々の業務と自己研鑽のバランスを取りながら、ガス主任技術者の資格を取得することが今の目標です！

編 / 集 / 後 / 記 /

◎2015年5月に当社がガス事業を開始してから、早くも丸4年、お客さまも18件となります。今月はフレッシュな新人を迎え、会社はますます活気あふれるものとなってきました。私も若手からパワーをもらって頑張らねば！！！（H）

◎先月18日にオープンした、那覇空港の国内線ビルと国際線ビルとの間に新たに開設されたターミナルビルに行ってみました。商業施設やアミューズ施設の格段の充実振り驚きました。空港に行かれる方は早めに着かれて新しい空間を楽しんではいかがでしょうか。（M）

01

2019 年度新卒者入社式

4月1日(月)、2019年度新卒者入社式を行いました。湊社長、大濱組合執行委員長からの挨拶の後、辞令交付に続いて、新人2名から力強い抱負の挨拶がありました。

湊社長からは、若い2名がメンバーに加わったことを心より歓迎すると共に、経営理念の「社員を育て幸せする」の通り、全社を挙げて2名が立派な社会人、そしてエネルギー事業のプロフェッショナルとなるよう全力を尽くすとの挨拶がありました。また、お願いしたいこととして、①環境が変わることから健康に留意すること、②今まで育ててもらった方、そして、これから業務において支援していただく方への感謝の気持ちを忘れないこと、③社会的に責任を持った言動をとること、④業務知識や教養を身につけるため毎日読書に励むこと、を挙げました。

また、組合執行委員長からは、組合を代表して歓迎すると共に、職場の先輩、上司と仕事を通じて学び、成長し、充実した社会生活を送って欲しいとの挨拶がありました。



技術営業部 ガス課
西里 叶夢 (にしぎと とむ)

生年月日 2000年7月4日
2019年3月 沖縄県立那覇工業高等学校
電気科 卒業

■主な資格
第一種電気工事士、ボイラ取扱技能講習修了
■自己PR
持ち前の我慢強さで信頼を得たいです！
■今後の抱負
早く仕事を覚えられるよう先輩方から学び、即戦力になるよう頑張ります。



技術営業部 電機課
宮平 樹 (みやひら たつる)

生年月日 1998年6月12日
2019年3月 沖縄職業能力開発大学校 電気
エネルギー制御科 卒業

■主な資格
第二種電気工事士、第一種電気工事士 筆記・実技合格、第二級陸上・海上特殊無線技士
■自己PR
新社会人として積極的に仕事に取り組んでいき、社員の方々と早く打ち解けられるよう頑張ります。
■今後の抱負
新たな資格を取得し、会社と共に自分自身も成長していきたいです！

02

国家資格取得者表彰

3月1日に技術営業部ガス課 西浜宏治さんが乙種ガス主任技術者および乙種化学高圧ガス製造保安責任者の取得について表彰されました。



03

第47回ごさまるトリムマラソン

平成31年1月6日(日)に中城村体育協会・吉の浦総合スポーツクラブ主催のごさまるトリムマラソンが、ごさまる陸上競技場で行われ、有志13名が参加し、参加者全員無事に完走、技術営業部 ガス課 安田樹さんがトリムの部で優勝を果たしました。



▲中城村マスコットキャラクター「ごさまる」と一緒に

トンガ王国向け可倒式風力発電設備設置工事 現地レポート

1月24日より社員2名を現地へ派遣し、風車の組立工程を推進しています。1月下旬には現地の海底ケーブルが破損しインターネットや電話が遮断され、派遣社員と連絡が途絶えるトラブルが発生。2月には幾度かのサイクロンの接近がありましたが、幸いにも人的、設備的な被害はありませんでした。6月末の竣工が無事故無災害で達成できるよう取り組んでいきます。

<< トンガ電力公社での進捗報告会 (3月22日) >>



▲石井トンガ大使(左側中央)、ポヒヴァ首相(右から4人目)、ピウカラ公営企業大臣(右から3人目)

<< 現地作業員によるタワー組立の様子 >>



<< 大使による風車サイト視察 (3月9日) >>

当社も同行し可倒式風車の説明を実施



▲高田太平洋島嶼地域担当大使(元沖縄担当大使、左から2人目)及び石井トンガ大使(左から3人目)

<< タワーのボルト締め作業 >>



▲ボルト締め作業をする棚原さんとそれを確認する山城さん(左端)

現地出張者の近況報告



山城 良太

沖縄でもトンガでも風車を建設する仕事に変わりはありません。現場作業は準備が7割という言葉を、最近改めて実感しています。英語が全く話せない状態で現地入りしましたが、現在は作業に関する調整だけなら、どうにか対応できるようになりました。



棚原 亮

トンガに来て間もない頃は、異国ということで食事面や衛生面、治安、言語等を心配していましたが、現地の方はとても気さくな方が多く、小さな離島にいる気分です毎日元気でやっています。